

# 図書館だより

枚方市立図書館通信第 90 号 <http://www.city.hirakata.osaka.jp/site/sub-news/tayori.html>

発行：平成 26 年 6 月 枚方市立中央図書館（毎週金曜日・第 4 火曜日休館）050-7105-8121（児童サービスグループ）

〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1 TEL 050-7105-8141(代) FAX 072-851-0962 写真：中央図書館/山中冬児絵本原画展会場



## 大阪美術学校卒業 山中冬児絵本原画展 大盛況！4/23-5/6

中央図書館で開催した「山中冬児絵本原画展」には、のべ 828 人（大人 645 人、子ども 183 人）の来場者があり、大変好評のうちに終わることができました。寄せられたアンケートによると、絵本原画の素晴らしさ、印刷では味わえないタッチの繊細さや柔らかさに感動するとともに、戦争やシベリア抑留の悲慘さ、それとは対照的な祇園祭や大文字の火の華やかさに魅了されたようです。今回の展覧会は、郷土枚方の歴史、戦争と平和、美術、文学というさまざまなアプローチ方法がありましたので、幅広い年齢層の方が熱心にご覧になっていました。

山中冬児さんは、1918 年（大正 7 年）大阪市生まれ。1929 年～1944 年（昭和 4 年～19 年）まで枚方市御殿山町にあった「大阪美術学校」油絵科を 1940 年（昭和 15 年）に卒業されました。1944 年（昭和 19 年）に召集を受け、中ソ国境に派遣され、2 年間のシベリア抑留を経て 1947 年（昭和 22 年）に帰国、戦後は絵本、挿絵、装丁で活躍しました。透明感のあるさわやかな画風のなかには、戦争への憎しみや悲しみ、平和への願いがこめられています。今回展示した原画は、「おかあさんの紙びな」（長崎源之助作、岩崎書店）、広島原爆の悲慘さを訴えた「かあさんのうた」（大野允子・文、ポプラ社）、シベリア抑留の体験を描いた「残悲多野（ザビターヤ）」（リブリオ出版）などから 35 点です。山中冬児さんは現在 95 歳、東京都在住。ご高齢のため来枚はかないかもしれませんが、枚方をとってもなつかしく思われ、このたびの展覧会を非常に喜んでおられました。

## 6 月の図書館イベント

### ○読書会

- 香里ヶ丘(図) 中高生読書会『変身』

フランツ・カフカ・著／角川書店

6/14(土) 午後 3 時 2 階ホール

- 茄子作分室成人読書会『下町ロケット』

池井戸 潤・著／小学館

6/16 日(月) 午前 10 時半

### ○乳幼児向けおはなし会

- 中央(図)

[0 歳児]午前 10 時半～、[1・2 歳児]午前 11 時 10 分～

6/11・25 日(水)

- 牧野(図)「親子で楽しむおはなし会」

6/18(水) 午前 11 時

- さだ(図)「おはなしいっぱいおはなし会」

6/18(水) 午前 11 時

### ○工作など

- 東香里分室 工作「パラシュートをとぼそう」

6/28(土) 午後 1 時～4 時

- 香里園分室 工作「パクン キャッチであそぼう！」

6/21(土) 午後 1 時～4 時

- 釈尊寺分室 工作「そらとぶロケット」

6/18(水) 19 日(木) 午後 1 時～4 時半

- 茄子作分室 工作「ロケットをとぼそう」

6/18(水) 午後 1 時～4 時半

- 氷室分室 工作「びゅんびゅんぼう」をつくろう！

6/19(木) 午後 1 時～4 時半

- 宮之阪分室 工作「カエルがぴょーん」

6/19(木) 午後 1 時～4 時半

- 藤阪分室 工作「ぱっちんガエルをつくろう」

6/28(土) 午後 1 時～4 時

- 村野分室 工作「ぴょんぴょんガエル」

6/20(金) 午後 1 時～4 時半

### ○その他

- 中央(図) 手話で楽しむおはなし会

6/28(土) 午後 2 時

- 香里園分室「手話の会」

6/13・27(金) 午前 10 時半～12 時

- 藤阪分室「手話の会」

6/9・23(月) 午前 10 時～12 時

### ふれあいルーム(絵本で子育て)

- 中央図書館 毎週月曜日

- 香里ヶ丘図書館 第 1・3(金)第 2・4(木)

- 楠葉生涯学習市民センター 第 2・4 火曜日

- 菅原図書館 毎週日曜日

- さだ図書館 毎週木曜日(第 3 週は金曜日)

- 牧野図書館 毎週金曜日

- 津田図書館 毎週水曜日

- 御殿山図書館 毎週金曜日

いずれも 10 時～12 時 30 分(楠葉のみ 9 時 30 分～12 時)但し、図書館等の休館日には実施しません。

問合先(子育て支援室)072-841-1221 代

### ちょっと【本の紹介】

《びじゅつかんへいこう》

ピーター・レイノルズ 絵 スーザン・ベルデ 文

なががわちひろ 訳 国土社

美術館に行くのは好きですか？ この絵本は美術館に行って、ただ鑑賞するだけでなく、絵や彫刻の魂を自分の心の中に取り入れる喜びを、うきうきと弾むように表現しています。

美術館の中に入ると主人公の「わたし」の心になにかがおきます。そわそわ、むずむずしたり、踊りたくなったりします。一休みして、次の部屋に行くと、彫刻があって、同じポーズをとって考えてみます。哀しそうな絵、楽しそうな絵、怖い絵、おかしな絵、絵の魂が「わたし」に乗り移ります。最後に思いもかけない絵を見て、呼吸が一瞬止まり、そのあと、想像力がはてしなく広がり、「わたし」の心のなかで自分だけの絵が創造されます。美術館を出たあとも余韻が残り、「わたし」の心は温かく楽しいものに満たされて家路に着くのでした。

(中央図書館児童サービス担当)